

南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

平成28年7月27日(木)作成

学校長：石丸 洋一	記述者：教諭 飯野 武重
-----------	--------------

1. 校訓 「日日新」

2. 本年度の学校教育目標
「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成

は

励んで学び、確かな知識を持つ生徒

(知育) → 知の力

っ

強い精神と身体を持つ生徒

(体育) → 体の力

た

助け合い、いたわり合う心を持つ生徒

(徳育) → 心の力

3. 学校経営方針

(1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。

(2)生徒理解を深め、一人一人のよさや可能性が生かされるよう努める。

(3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。

(4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。

4. 生徒の努力目標

(1)授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか)

(2)さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか)

(3)思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか)

(4)主体的に活動しよう (3本の木を大切にし、創意工夫を持って取り組めたか)

5. 教師の努力目標

(1)社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師

(2)異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見いだし伸ばしていく教師

(3)教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師

(4)教員と生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師

6. 学校経営の努力点

(1)知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。

(2)自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。

(3)豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。

(4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。

(5)家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

I 全体評価

1. 教職員の自己評価

(1) 本年度の特徴

《A・B (肯定的評価) において》

① A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について (昨年度1項目)

「学校運営3：教育内容や生徒の様子を保護者に各種のおたよりや通信で知らせている」 (89.5%)

「教育課程1：あなたは、基礎基本が身につくように、授業のやり方や教材を工夫している」 (89.5%)

「教育課程3：あなたは、道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている」 (89.5%)

「特別活動1：あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組み等において、生徒に目標を決めさせたり主体的に学習できるように指導している」 (88.9%)

「特色ある学校2：自主学習ノートの取り組みが、自主的な学びにつながり、学力が向上」 (89.4%)

② A評価が10%以上向上した項目について (昨年7月と比較：昨年度4項目)

「学校運営1：あなたは、学校教育目標の達成のために授業をはじめ教育活動を通して努力している」

「学校運営4：あなたは、校舎内外の施設・設備や火災・防災訓練等の安全対策は充実していると思っている」

「生徒指導5：あなたは、生徒が学校生活全体を通してのびのびと学んだり、安心した学校生活を送れるようにしている。」

A評価が10%以上減少した項目について (昨年7月と比較：昨年度5項目)

「学校運営3：あなたは、教育内容や生徒の活動のようすを保護者に各種のおたよりや通信で知らせている」

「学校運営6：あなたは、生徒の学習や生活のようすを家庭に知らせ、家庭と連携して学校生活を良くしようとしている」

「生徒指導4：あなたは、生徒のあいさつや時間指導、家庭学習や提出物等、基本的生活習慣を向上させようとしている」

「生徒指導6：あなたは、いじめのない学校を目指して、積極的に取り組んでいる」

「特別活動1：あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組み等において、生徒に目標を決めさせたり主

体的に学習できるように指導している」

「特別活動 2：あなたは、校外学習等の学校行事が生徒の成長や学校生活に役立つなど、充実するように指導している」

「特別活動 3：あなたは、生徒が生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組めるように指導している」

《C・D（否定的評価）において》

③ C（否定的評価）が 10%増えた項目について（昨年 7 月と比較：昨年度 0 項目）

「教育課程 1：あなたは、基礎基本が身につくように、授業のやり方や教材を工夫している」

D（否定的評価）が、ついた項目について（昨年 7 月と比較：昨年度 0 項目）

なし

④ C・D（否定的評価）の評価がまったくない項目（昨年 7 月と比較：昨年度 18 項目）

「学校運営 1：あなたは、学校教育目標の達成のために授業をはじめ教育活動を通して努力している」

「教育課程 2：あなたは、学習面（生活）で生徒の持っている資質や能力・実績や努力を適切に評価している」

「生徒指導 1：あなたは、生徒に気軽に声をかけたり、それぞれに合ったアドバイスをしている」

「生徒指導 3：あなたは、職員同士、職員と生徒、職員と保護者、それぞれが相互に生徒を良くしようとしている」

「生徒指導 4：あなたは、生徒のあいさつや時間指導、家庭学習や提出物等、基本的生活習慣を向上させようとしている」

「生徒指導 5：あなたは、生徒が学校生活全体を通してのびのびと学んだり、安心した学校生活を送れるようにしている」

「生徒指導 6：あなたは、いじめのない学校を目指して、積極的に取り組んでいる」

「特別活動 2：あなたは、校外学習等の学校行事が生徒の成長や学校生活に役立つなど、充実するように指導している」

以上 8 項目。

（2）平成 27 年度より改善・向上した項目

A・B が 90%未満は昨年度 1 項目（84.2%）であったが、本年度は 5 項目ではある。しかし、5 項目全てが 88.9～89.5%とほぼ 90%といえる。

上記の示したように昨年度よりやや厳しい評価となっている。本年度は 22 人中 7 人の新しい先生方を迎え 1 学期間を振り返り、自分への厳しい評価と共に「まだまだ八田中ではできる」と新風をもたらす原動力の評価となったからだと思われる。

（3）2 学期の取り組み課題（自由記述より）

八田中の 3 本の木である「合唱・部活動・応援」についての底力はこんなものではないとあるように、学園祭での応援、新人戦大会、合唱コンクールと大いに活躍できる学期である。生徒が意欲的に取り組むことはもちろんであるが、この反省にあるように教師もリーダーシップを取りながら八田中 3 本の木を見つめなおす必要がある。

学習や生徒指導において個人差があり、個々の教員では限界も見られる。「チーム八田」と言われるように、互いを助け合える「チーム力」を意識した職員の活動が大切と思われる。

八田地区は小中 1 校ずつであることから小中連携が早くから意識され、昨年度より具体的な取り組みが行われるようになってきている。そのようなことから学校評価にそのような内容や小中共通の項目が含まれていくことも必要である。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

（1）本年度の特徴

A・B（肯定的評価）の合計が 80%未満の項目（全校集計から）について

○全 26 項目中（除携帯電話項目）、1 項目である（昨年度 1 項目、1 昨年度 4 項目）。生徒が学校生活全般に渡り肯定評価している傾向が如実である。

「学校生活全般 2」授業は全般的にわかりやすいと思いますか。（79%）のみである。

26 項目中 90%以上 14 項目 80%～89% 11 項目 80%未満 1 項目

（2）3 年生の評価について 【昨年前期 2 年→本年前期】

① 2 年次より A・B（肯定的評価）が向上した項目について

26 項目中 16 項目（昨年度の 3 年生 21 項目）である。うち 10%以上向上した項目は、2 項目（昨年度の 3 年生 16 項目）あった。

本年度、90%以上の項目 20 項目（昨年度の 3 年生 11 項目）

昨年度と比べると伸び率が良くないように思えてしまうが、現 3 年生の肯定評価は 1 年次より高かった。

現在 3 年生 90%以上の項目 3 年次 20 項目 2 年次 16 項目 1 年次 21 項目である。

昨年 3 年生 90%以上の項目 3 年次 21 項目 2 年次 4 項目 1 年次 4 項目である。

②否定的評価(C・D評価)が高い項目（20%以上）について

2 項目だった。（昨年度の 3 年生 1 項目「学校運営 1」25%）

「特色ある学校 2：あなたは、「自主学習ノート」の取り組みが、自分の学力向上になると思いますか。」21%

「学校生活全般 2：授業は全般的にわかりやすいと思いますか。」24%

*他の 24 項目は、A・B 評価（肯定評価）がすべて 80%以上であった。（うち 90%以上が 20 項目）

(3) 2年生の評価について 【昨年前期1年→本年前期】

① 1年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

26項目中10項目（昨年度の2年生7項目）である。うち10%以上向上した項目は、3項目（昨年度の2年生0項目）あった。

本年度、90%以上の項目 6項目（昨年度の2年生16項目）

② 否定的評価（C・D評価）が高い項目（20%以上）について

9項目だった。（昨年度の2年生 1項目）

「学校運営1：あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」25%

「教育課程3：あなたは先生が、道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしていると思いますか。」26%

「生徒指導1：先生は、気軽に声をかけあったり、それぞれに合ったアドバイスをしてくれると思いますか。」43%

「生徒指導2：先生は、生徒にきまりや約束ごとを指導し、いけないことに対して素早く対応していると思いますか。」28%

「生徒指導3：先生どうし、先生と生徒、先生と保護者は、相互に協力して、生徒を良くしようとしていると思いますか。」28%

「生徒指導4：あなたは、あいさつや時間の厳守、家庭学習や提出物など、基本的生活習慣の向上をめざしていますか。」23%

「特色ある学校2：あなたは、「自主学習ノート」の取り組みが、自分の学力向上になると思いますか。」21%

「学校生活全般1：学校生活は全般的に楽しいと思いますか。」23%

「学校生活全般2：授業は全般的にわかりやすいと思いますか。」33%

*他の17項目は、A・B評価（肯定評価）がすべて80%以上であった。（うち90%以上6項目）

(4) 1年生の評価について

① 否定的評価（C・D評価）が高い項目（20%以上）について

1項目だった。（昨年度の1年生 7項目）

「特別活動1：あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組みなど、目標等を決め、主体的に学習していますか。」24%

*他の25項目は、A・B評価（肯定評価）がすべて80%以上であった。

うち90%以上24項目（昨年 6項目）

(5) 2学期の取組課題（80%未満は1項目のみである。90%未満の12項目を課題とする）

- ① 「学校運営1：あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」（84%）について、昨年も75%と低くかったが、2学期の取り組み課題として取り上げ79%と向上した。本年度の4月にも学校教育目標を意識することを提案したこともあるためか、比較的高い数値を示していると思われる。

今後行事の多い2学期において、それぞれの教育活動の目標と個々の具体的な努力目標、学校目標を常に関連づけることにより、「知・徳・体」のバランスのとれた育成がさらに可能になると考える。

- ② 「教育課程2：あなたは先生が、学習面（生活）であなたの持っている力を伸ばしたり、努力の成果を評価していると思いますか。」（89%）について、ほぼ90%と高い数値を示しており、昨年度の84%より5ポイント向上はしている。

今後も生徒の良い点を見つけ出し、さらに良い点を向上させることを基本に、学習面・生活面において広く生徒を成長させていく努力が大切である。

- ③ 「教育課程3：あなたは先生が、道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしていると思いますか。」（88%）について、昨年度85%であり3ポイント向上はしている。

今後ますますの道徳授業の研究はもちろん、上記の生徒の良い点を見つけ出し、さらに良い点を向上させることを基本に、個々の生徒とのコミュニケーションづくり、朝の会・帰りの会等での「生き方」の話題などを取り入れる努力が必要である。

- ④ 「生徒指導1：先生は、気軽に声をかけあったり、それぞれに合ったアドバイスをしてくれると思いますか。」82%↓（1年91% 2年57% 3年93%） 昨年度88%

「生徒指導2：先生は、生徒にきまりや約束ごとを指導し、いけないことに対して素早く対応していると思いますか。」88%↓（1年96% 2年72% 3年93%） 昨年度91%

「生徒指導3：先生どうし、先生と生徒、先生と保護者は、相互に協力して、生徒を良くしようとしていると思いますか。」86%→（1年95% 2年72% 3年87%） 昨年度86%

「生徒指導4：あなたは、あいさつや時間の厳守、家庭学習や提出物など、基本的生活習慣の向上をめざしていますか。」89%↑（1年94% 2年77% 3年94%） 昨年度87%

「生徒指導５：あなたは、学校生活全体を通して、のびのびと学び、安心して学校生活を送っていますか。」
８７％↓（１年９１％　２年８２％　３年８６％）　昨年度８９％

生徒指導６項目中上記の５項目が９０％以下である。昨年度も４項目が９０％以下である。とくに昨年度より９０％以下増えた１項目は「生徒指導２：先生は、生徒にきまりや約束ごとを指導し、いけないことに対して素早く対応していると思いますか。」である。

数値的に２年生が厳しい値を出しているが、３年生においても「生徒指導３：先生どうし、先生と生徒、先生と保護者は、相互に協力して、生徒を良くしようとしていると思いますか。」が、昨年９０％→８７％と下がっていることや１年生においても人間関係や決まり事等についての生徒指導の問題も出てきている。

中学２年生はとくに「自立した大人へと歩み始める」とても難しい時期であることは一般的ではあるが、全学年においても大なり小なり日々生徒指導が行われているのは事実である。

生徒の目はとても敏感である。生徒指導に関わる研修（Ｈ２８年度：八田中学校保健委員会など）に参加することや校内研修の実施、先輩教師に相談するなどして個人の技量を高める努力はもちろん、「お互いを助け合う」気持ちを持ちながら「チーム」として八田中全体を高める生徒指導が大切と思われる。

- ⑤ 「特別活動１：あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組みなど、目標等を決め、主体的に学習していますか。（学習してきましたか。）」（８６％）について、昨年度は８４％であり２ポイントの向上である。２年生は昨年７３％→８５％と、３年生は昨年８９％→９９％と大きく向上している。３年では修学旅行が、２年では宿泊学習の行事が企画され、各個人のテーマ決定からコース作りと自主的な学習の場が設定されているから数値が高いと思われる。しかし、１年生は宿泊学習がなく、代わりにミニ学園祭が企画されており、各個人が特に自主的に取り組む場も設定されておらず７６％と低い数値を示したと思われる。また、総合的な学習の時間として、「地域調べ」を行っているが、より自主的な学習となるよう検討する必要がある。

- ⑥ 「特色ある学校２：あなたは、「自主学習ノート」の取り組みが、自分の学力向上になると思いますか。」（８５％）について、昨年度は８０％であり５ポイントの向上である。しかし、３年生は８１％（２年次）→７９％と、２年生は７９％（１年次）→７９％と昨年度より向上は見られない。１年生が９５％高い数値を示したため全体が向上している。

昨年度は校内研究に「自主学習ノートの取り組み」も含まれ、全職員で意識されて取り組まれていたが、本年度は校内研究には含まれていない。言語活動の充実や家庭学習の定着を図るために、各学年で「自主学習ノートの活用」についてもう一度検討する必要があると思われる。

- ⑦ 「学校生活全般１：学校生活は全般的に楽しいと思いますか。」（８５％）について、１年生９０％、２年生７７％、３年生８６％である。また２年生は８２％（１年次）→７７％、３年生９４％→８６％と低下している。

特に２年生においては、先の生徒指導の充実を図りながら、全学年において「各自の居場所づくりや活躍できる場の確保」を意識した学校生活全体への取り組みが大切と思われる。

- ⑧ 「学校生活全般２：授業は全般的にわかりやすいと思いますか。」（７９％）について、昨年は８８％であり、９ポイントの低下である。１年生は９１％であり、２年生７９％（１年次）→６７％　３年生９２％（１年次）→７６％と大きな低下を示した。

３年生においては、いよいよ受験の現実気づかされたことが大きな起因と思われるが、全学年共に学習に向かう心構えとしての生徒指導の充実を図ることが大切である。

教師側も充実した授業展開が図られるよう校内研究に積極的に参加することはもちろん、授業を見合うなどして個々の授業力の向上に努める必要がある。

Ⅱまとめ(成果と課題)

この自己評価では、評価基準として教職員自己評価のＡ・Ｂ評価が９０％以上、生徒アンケートのＡ・Ｂ評価が８０％以上に設定した。この基準からは「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとなると捉える。

- 学校運営については、教師・生徒とも高い評価が表れている。「学校運営１」は、生徒８４％と教師１００％と大きなずれを生じているが、教師側が学校目標を大前提に、それぞれの教育活動を指導し取り組ませることが必要である。「学校運営２～６」は生徒も９０％を越えており、教師側との整合性もあり、今後も生徒が満足するような取組を行うことが大切である。

- 「教育課程２」の評価についてについて、教師側は１００％を示したが、生徒側は８９％である。生徒側も高い数値を示してはいるが、評価のギャップを真摯に受け止め、生徒側の視点に立った学力、道徳、特活面の向上を図るさらなる努力を続けることが大切である。また、「教育課程３」の道徳について、教師側も生徒側も９０％を切り、若干低めの数値を示している。道徳の授業はもちろん、生徒とのコミュニケーションづくりに励み、日常生活での道徳心の向上を図ることが大切と思われる。

- 生徒指導については、「生徒指導１～６」の教師側の肯定評価は９５％１つ、１００％５つ、生徒側も８０％代５つ、９７％１つと高い肯定評価を示している。しかし、生徒の８０％代は２６項目中１１項目しかなく、しかも生徒指導６項目中５項目が８０％代を示しており、教師側と生徒側のギャップは大きいと言える。

生徒指導に関わる研修を積み重ねたり、校内研修の実施、先輩教師に相談するなどして個人の技量を高める努力はもちろん、「お互いを助け合う」気持ちを持ちながら「チーム」として八田中全体を高める生徒指導をどう取り組むかの検討が今後必要である。

「生徒指導６」のいじめについて、生徒側の肯定評価は９７％と高い評価を示したが、３％とあることを危機管理的要素として捉え、いじめ０を目指して日々強固に取り組んでいくことが必要である。いじめは犯罪であるという認識のもと１００％にすることが必要である。

- 「特別活動１」について、教師側も生徒側も全体の数値に比べるとやや低い数値が出ている。進路学習や校外学習に自主的に学習させているか（学習している）の項目である。共に総合的な学習の時間に関する項目となるが、授業のあり方を再検討し、生徒に充実感のある授業展開が行われるよう工夫が必要である。

- 特色ある学校について、「合唱」については共に高い数値を示している。「自主学習ノート」については、教師・生徒共に低めの数値となっている。校内研究の対象から外れたものの継続はされており、各学年での早急な確認が必要である。

- 開かれた学校について、「開かれた学校１」の教師側１００％、生徒側９０％と共に高い肯定評価を示している。本校では年４回の学校開放を実施している。その中でも来校数がもっとも多いのは、学園祭や合唱コンクールなどの学校行事である。

子どもの成長した姿や活躍する姿を見る楽しみは、来校の明確な目的である。また保護者、地域との連携の大きなきっかけでもある。今後もより多くの来校者が訪れるよう、生徒・保護者に啓発していく必要がある。

- 学校生活全般について、「学校生活全般１」の学校生活が楽しいは肯定的評価が昨年度９１％→８５％と低下している。「学校生活全般２」の授業がわかりやすいは肯定的評価も昨年度８８％→７９％と大きく低下している。生徒達にとって「学校生活が楽しい」や「授業がわかる」ことは学校教育目標の重点である。

生徒の居場所づくりはもちろん、個々の生徒が活躍できる場を確保しながら充実した生活が送れるよう学校全体として取り組むことが大切である。また、学習に向かう心構えとしての生徒指導はもちろん、教師側も充実した授業展開が図られるよう校内研究に積極的に参加、授業を見合うなどして個々の授業力の向上に努める必要がある。

- 「学校生活全般３」の携帯電話の保有率は１年６８％、２年６９％、３年７３％と学年を追うごとに保有率が高くなっている。「学校生活全般４」の携帯電話でのルールについては１年６７％、２年４０％、３年６４％と学年を追うごとにルールが緩くなっている。

今後も携帯電話におけるトラブルがないように、情報を高く持ちながら生徒指導主事を中心に指導を図っていく必要がある。

生徒の肯定評価８０％を越えなかったのが１項目のみとなっている。この高評価は、生徒との信頼関係を築いてきた先生方の日々の努力のあらわれであると確信している。

この高評価に甘えることなく、高い評価はさらに伸ばせるように、また低い評価については改善が図れるように全職員で共通理解を持ちながら取り組むことが必要である。